

COLLANA DI STUDI GIAPPONESI

MIGAKU

3

Direttore

Matilde Mastrangelo

Comitato scientifico

Giorgio Amitrano

Luca Capponcelli

Gianluca Coci

Silvana De Maio

Gala Maria Follaco

Chiara Ghidini

Andrea Maurizi

Maria Chiara Migliore

Luca Milasi

Maria Teresa Orsi

Cristian Pallone

Stefano Romagnoli

Ikuko Sagiyama

Virginia Sica

COLLANA DI STUDI GIAPPONESI

MIGAKU

La Collana di Studi Giapponesi raccoglie manuali, opere di saggistica e traduzioni con cui diffondere lo studio e la riflessione su diversi aspetti della cultura giapponese di ogni epoca. La Collana si articola in quattro Sezioni (Ricerche, Migaku, Il Ponte, Il Canto). Tutti i volumi sono sottoposti a una procedura di referaggio con doppio anonimato (*double-blind peer review*).

La Sezione *Migaku* (che in giapponese significa “raffinare”, “perfezionare”, “migliorare”) comprende manuali per l’insegnamento delle materie relative alla cultura giapponese incluse nei curricula accademici dei corsi di laurea di base e magistrale. La Sezione riunisce opere ideate e strutturate per offrire agli studenti universitari di ogni livello agili e utili strumenti di lavoro e di riflessione sulle discipline oggetto dei loro studi.

MIHO TOKIMOTO

**NEW PATHWAYS
TO JAPANESE**

日本語～新しい小徑





aracne



ISBN

979-12-218-0629-8

FIRST EDITION

ROMA 26 APRIL 2023



Original work:
Miho Tokimoto
Nuovi sentieri per la lingua giapponese
日本語～新しい小径
Roma, Aracne editrice, 2022

目次

- 9 はじめに／Introduction
- 12 特徴と使い方／Characteristics and user guide
- 20 謝辞／Acknowledgements
- 22 略号／Abbreviations

23 第一章 食と私たち

- 24 1-A ポンペイのファストフード ***
- 30 1-B フードロス ***

35 第二章 発 明

- 36 2-A 真 珠 ***
- 40 2-B 必要は発明の母 ***

47 第三章 受け継がれる心

- 48 3-A 茶道の心 ***
- 54 3-B 金継ぎ ***

61 第四章 国境を越えて

- 62 4-A ラグーザ玉 ***
- 67 4-B フォスコ・マライーニ ***

75 第五章 人の知恵とは

- 76 5-A セレンディピティ ***
- 81 5-B AIと人間 ***

87 第六章 言語と私たち

- 88 6-A 翻訳の話 ***
93 6-B なぜ言語を学ぶのか ***

97 第七章 日本建築の伝統と今

- 98 7-A 紙でできた家 ***
103 7-B 法隆寺五重塔 ***

109 第八章 資源と環境

- 110 8-A プラスチック ***
115 8-B 都市鉱山 ***

121 第九章 江戸の人々

- 122 9-A 江戸の町 ***
128 9-B 寺子屋 ***

133 第十章 人間らしく

- 134 10-A 延命治療とターミナルケア ***
138 10-B 沖縄に眠る ***

巻末資料

- 143 1. 「確かめよう」解答
147 2. 語彙索引
160 3. 漢字語彙
175 4. 各課別表現一覧
177 5. あいうえお順表現一覧

はじめに

近年の急速な社会の変化に伴って、求められる人材も大きく変化しています。以前のように情報処理能力の発達に重点を置いた教育では、現在の知識基盤社会に対応できる人材は育成できないとされ、その打開策として最近ではアクティブラーニングが重視されています。

また、言語教育においても、時代が転換期にさしかかっていると感じている人は多いのではないのでしょうか。言語だけを社会から独立させ、その構造のみに目を向け、それを学習させることが言語教育であるという考え方は、すでに過去のものになりつつあるように思われます。言語とは対話という過程を経て存在するものであり、人は他者と言葉を紡いで意味を作り出していくという考え方がその基盤にはあります。

特に現代のような世界において、文化やアイデンティティは非常に流動的で、個と他の間の相互関係から言葉を通して形成されるものです。したがって、言語教育が目指すことの一つは、言語を通じた他者との関わりの中で自分の存在を認識し、他者を理解することです。また社会で起こっていることを自分の問題として、つまり自分との関係の中で考え、他者を尊重しながら責任を持って行動することも目的とされます。これらの考え方は、それぞれ欧州評議会により、「複言語複文化能力」および「民主的文化能力」と呼ばれ、言語教育の理念としてヨーロッパ以外でも盛んに議論されるようになってきており、それに即した教材も求められています。*

この『*New Pathways to Japanese* 日本語～新しい小径』は、現代社会や日本とイタリアに関するテキストを中心に成り立っていますが、目的はそれらを「読んで理解する」ことや、テーマについての「知識を向上させる」ことではありません。扱われているテーマを題材に、創造的で主体的なりサーチや協働活動を行い、批判的思考やメタ認知を意識できるような、また世界と自分とのつながりを考えていけるようなリソースとして作成しました。またインクルーシブ教育も念頭に置き、フォントにも配慮しました。

日本語を学習する方々と日本語教育に携わる方々が、共に学び成長していけるよう願いを込めて、本書を刊行します。

時本美穂

Introduction

This teaching resource, *New Pathways to Japanese*, is a translation of *Nuovi Sentieri per la Lingua Giapponese*, which was published in 2022. It is based on innovative methodological principles whereby the student is encouraged to participate more actively in the learning process.

With the rapid changes that have been observed in society in recent years, the human resources required to meet people's objectives have diversified significantly. Therefore, it is necessary to implement a new methodology of teaching by emphasising approaches that include, for example, active learning.

Those who are involved in language teaching may feel that we are on the cusp of a paradigm shift in language learning. The idea that language must be taught as something that is somewhat distanced from society, and focusing only on its structure, however, seems already to be a thing of the past. Language is not static but exists and evolves through a continual process of dialogue, during which interlocutors create meaning that is based on their communication.

Culture and identity are also extremely changeable and are formed through interrelationships with others. Therefore, one of the fundamental aspects of language teaching, I would argue, is not to impart as much language knowledge as possible, but to offer learners opportunities to discover their own reality and to understand others in relation to themselves through language. In this sense, language teaching can contribute to society more widely by enabling students to reflect on their relationship with what is happening in the world, and to act as responsible citizens. These concepts are referred to by the Council of Europe as “plurilingual and pluricultural competence” and “competences for democratic culture”, respectively, and are emphasised increasingly as principles for language teaching even outside Europe. The teaching material presented here is devised to meet these requirements. *

The material included in this book consists of texts that cover subjects related to contemporary issues. These texts are not only a

tool for “reading and understanding” or “improving knowledge” of the included topics, but also provide a resource for students to conduct creative and independent research and collaborative activities in order to develop a greater awareness of their own critical thinking and metacognition. In addition, to make the material as inclusive as possible, the Japanese text font used was chosen by taking into account the various learning difficulties that students of the Japanese language often face.

It is my sincere hope that people learning Japanese, and those involved in its teaching, can grow together.

Miho Tokimoto

*

Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages*

Council of Europe (2016) *Competences for Democratic Culture: Living together as Equals in Culturally Diverse Democratic Societies*

Council of Europe (2018) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment Companion Volume with New Descriptors*

Tokimoto (2021) Un esperimento di utilizzo del drama work. In Kaiser et al. (Eds.). *Competenza comunicativa: insegnare e valutare*. (pp.191-198). Roma: Sapienza Università Editrice.

時本 (2022) 「民主的文化のための日伊協働学習プロジェクトワークの試み—大学院での実践を通して」 <https://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=402-413&filename=tokimoto.pdf&p=online2020>

藤光他 (2019) 「演劇的手法を活用した『参加し、表現する学び』—欧州の教師研修、継承語教育、高等教育、成人教育の現場への展開—」 <https://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=286-322&filename=panel-sato-nemoto-nishizawa-tokimoto-uehara.pdf&p=belgrade>

特徴と使い方

まず初めに表紙のお弁当をご覧ください。「中には何が入っているでしょうか」「日本のお弁当には、どんな特徴があるでしょうか」「日本人の友達に、子供の頃どんなお弁当が好きだったか、誰が作ってくれたのかなど、お弁当に関する思い出を聞いてみましょう」「もし、今お弁当を作るとすれば、どんなものを入れたいか考えて、他の人と話してみましょう」「この写真のお弁当の材料は、それぞれどこで生産されたものか調べてみましょう。日本で生産されたものでしょうか」……お弁当から、いろいろなテーマが広がります。本書は、一つの文章から、このように活動を広げていくことを目指しています。

1. 対象

N2レベル以上、特に高等教育機関などで日本語を学び、日本語を通じて社会と自分の関わりについて考える活動を展開したい人々を対象としています。

2. テーマ別レベル別構成

本書は全体で10章構成となっており、章ごとに異なるテーマを扱っています。テーマは現代社会や日本とイタリアに関するもので、他の教科書でも必ずと言っていいほど扱われているロボット、再生可能エネルギーなどは省きました。

語彙、漢字語彙を基準に3レベルを想定し、各章には二つの異なるレベルのテキストを収めました。それぞれのレベルの後に書かれている語彙と漢字の目安はこれを習得していれば90~93%が理解できるというものです。

*** かなりやさしい 語彙2,000語 漢字400字

** 普通 語彙4,000語 漢字600字

*** やや難しい 語彙6,000語 漢字800字

(東京大学松下言語学習ラボによる)

第一章から第三章までは***と***、第四章は***と**
*、第五章から第十章までは***と***から成っています。始め方、
進み方は学習者の興味とコースデザインによってご自由にお考えください。
一つのテーマを深めるとすれば、後半のテキスト(B)の方が前半のテキス
ト(A)よりも難易度が高いので、例えばBのテキストを教室で扱う前にA
を予習として速読し、前作業とするような使い方もできます。Aだけを読み、
基本的なことをおさえた上で、自分でリサーチをして産出活動につなげると
いった使い方もできるでしょう。また、同じようなレベルのテキストで、さまざ
まなテーマについて考えてみることもできます。

3. 内容

①読む前に

テーマを自分にひきつけて考えるきっかけを作るための質問例を各章の
初めに載せました。

②本文

全体で10のテーマ、20のテキストが収められています。レベルは上記
の基準に沿っており、この本文に限ってそれ以上の漢字語彙には初出時に
ふりがなをつけました。

③語彙

上に示したレベル以上の語彙をリストにし、文中で使われている意味の
英訳をつけました。授業では、この訳を初めから参考にするのではなく、例
えば既習の漢字から意味を類推するなど、できるだけアクティブな語彙学
習を目指していただければと思います。

④確かめよう

内容確認の質問例です。提示順は、まず概要を把握してから細かいこと
を読み取るようになっています。

⑤文法ノート

ここで新しい文法項目を学習するためではなく、おそらく既習であろう項目が、どのような文脈で使われているかを確認する程度の簡単なノートです。

⑥漢字語彙

ふりがなをつけた語彙をリストにしました。巻末にこれらの語彙の課別対訳リストを掲載しました。

⑦やってみよう

リサーチしたことを自分なりの形で伝えたり、言いたいことを言語化したりする際の手助けの一例です。口頭での産出活動を中心にして、演劇的手法を使った活動例も載せました。演劇的手法とは、学習活動の中に演劇的要素を取り入れることで、学びを充実させようとする活動一般を指し、素晴らしい演技をすることや、前もって準備をして母語話者のような日本語を話すことを目指すものではありません。知的探究をパフォーマンスとして展開する過程で、能動的で創造的な知を学習者内部に形成していくことを目的とするもので、他者への理解と協働作業から市民性を促進するという活動です。言語知識の正確さは、スクリプトを書いてみるといった活動をプラスすることで学習していけるでしょう。

例えば、「～を紹介するテレビ番組のシミュレーションをグループで作ってみましょう」といった課題がいくつか出てきます。事実だけを述べるのではなく、学習者がテレビ番組の解説をする識者や意見を述べる評論家になり、自分とその事象とを関係づけてとらえることで、よりアクティブで深い学びになるのではないのでしょうか。登場人物は、他にも街頭でインタビューされる人やある問題についてボランティア活動をしている人など、それぞれの想像力と創造力を生かして加えてください。

⑧巻末資料

1. 「確かめよう」解答

各課の「確かめよう」の解答例です。

2. 語彙索引

各課の「語彙」に提示された言葉全てをあいうえお順にリストにしました。
ただし、一部の固有名詞は含まれていません。

3. 漢字語彙

各課の「漢字語彙」に英訳をつけました。

4. 各課別表現一覧／5. あいうえお順表現一覧

各課の「文法ノート」で提示された表現を各課別とあいうえお順の一覧表にしました。

Characteristics and user guide

Look at the picture of the bento on the book's cover. What do you think is inside? What are its features? Ask your Japanese friends to describe what memories they have of the bento that they used to eat as children, and what ingredients they liked best, or who prepared them. If you were to make one, what ingredients would you like to use? Look for where the ingredients in the picture were produced. Were they grown in Japan? As can be seen, by taking the bento box as a starting point, a wide variety of topics can be explored. The aim of *New Pathways to Japanese* is precisely that – to start with a text and then use the topics presented to create new learning activities.

1. Target

This textbook is designed for students with Japanese language skills at N2 level to encourage them to participate more actively in the learning process.

2. Different themes and levels

The book contains ten chapters, each of which deals with a topic relating to contemporary society or a theme which can generate interest in learners of the Japanese language. Subjects frequently presented in other textbooks, such as robots or renewable energies, are not included but every effort has been made to address new topics as much as possible. The content is designed around three levels based on vocabulary and kanji, with each chapter containing two texts of different difficulty levels. These are listed below, and students are expected to be able to understand 90–93% of the text if they know the corresponding number of words and kanji.

- * * * easy, 2,000 words and 400 kanji
- * * * average, 4,000 words and 600 kanji
- * * * relatively difficult, 6,000 words and 800 kanji

(Classifications according to the Matsushita Laboratory for Language Learning)

Chapters 1 – 3 consist of *✽✽ and ✽✽✽ level texts, Chapter 4 of ✽✽✽ and ✽✽✽ level texts, and Chapters 5 – 10 of ✽✽✽ and ✽✽✽ level texts. How students start and proceed will depend on their interests and syllabus of the course they take at the institution at which they are studying. The second text (B) is more challenging than the first (A), so students can, for example, use text A to prepare at home for the reading and classroom activity based on text B. Alternatively, they could read only text A to acquire some basic knowledge on the subject and then continue with research and production activities. Furthermore, it is also possible to use texts of the same level on different topics to explore different themes.

3. Structure

①読む前に Lead-in

A pre-reading section at the beginning of each chapter introduces students to the topic through questions. These help students to think about the topic, especially in relation to their own experiences and knowledge.

②本文 Main text

There are 20 texts on 10 topics in the book. The levels are organised according to the above-mentioned criteria, and kanji not included in the defined levels have furigana when they first appear.

③語彙 Vocabulary list

Words not included in the given level are listed in the vocabulary list, with English translations of the meanings used in the main text. It is advisable to make vocabulary learning as active as possible in class, working, for instance, with word analogies based on previously learnt kanji, rather than consulting the translation from the beginning. Non-assimilated Japanese words into the English lexicon (as defined by the Oxford English Dictionary) are italicised.

④確かめよう Comprehension

These sections contain questions to ensure that comprehension

of the text has been achieved. They are presented so that students can gain an initial overview of the content, and then go on to read the details.

⑤文法ノート Grammatical notes

These are not intended to introduce new grammatical elements but designed simply to help students to see what contexts in which certain elements, already learned, are used.

⑥漢字語彙 List of kanji words

The kanji with furigana are listed. A summary of these words with translations is also included at the end of the book in the order of the lessons.

⑦やってみよう Activity hints

These are activity examples to encourage students to verbalise what they wish to say, or to communicate the results of any research they have undertaken. Various oral production activities are inspired by *drama work*, which is a method that seeks to enrich learning by incorporating theatrical elements into study activities. This does not, however, aim to produce perfect performances or that learners speak Japanese like a native speaker by preparing the text in advance. Rather, it is a teaching technique that helps to form active and creative knowledge in the student by intervening in the process of developing a research-based performance and promoting democratic citizenship through understanding others and collaborating with them. Linguistic accuracy may also be enhanced by adding activities such as scriptwriting.

An example of a task could be: “Let us, divided into groups, simulate a TV programme on...e.g. *terakoya*”. If, instead of just stating the facts, the students act, for example, as commentators or critics in the TV programme, they will be able to relate to the topic in hand and make their learning more active and deeper. It is advisable, in these scenarios, to add other characters using one’s imagination and creativity, such as someone being interviewed on the street or doing voluntary work.

⑧巻末索引 Appendix

1. Solutions: Examples of solutions for 確かめよう.
2. Glossary in *aiueo* order: a list of all the words listed in the vocabulary list sections, with the exception of some proper nouns.
3. List of words written in kanji in lesson order with the English translations.
4. 5. Indexes of grammatical elements presented in the grammar notes, in lesson order and in *aiueo* order.

謝辞

企画の段階から常に私を励まし、助言をくださったサピエンツァ・ローマ大学東洋学研究学科マティルデ・マストランジェロ教授、

本作りの奥深さを教えてくださった酒井孝博氏、栃折信太郎氏、市川真樹子氏、表紙のデザインを考えてくださったオーケリンド森山祐子氏、イラストのエレナ・リッチューリ氏、

筆者の言語教育に関するビジョンを共有しながら、英語版作成に多大な力を貸してくださったジョン・ニクソン氏、

教師としての立場から有益なアドバイスをくださったサピエンツァ・ローマ大学の小澤直子先生、一ノ瀬智子先生、石原有佐子先生、テキストを読み、ご意見をくださった飯塚海氏、

熱心に授業に参加してくれたサピエンツァ・ローマ大学東洋学研究学科修士課程の学生の皆さんに心から感謝いたします。